



第一回 酸素療法・人工呼吸器講習会
酸素療法を正しく理解する
田邊翔太 先生



新年を迎えて

卒後臨床研修委員会 委員長 安部 睦美



あけましておめでとうございます。1年次研修医の先生たち、医師として働いて初めてのお正月、どう過ごしていましたか？そして2年次研修医の先生たち、研修医としてはあと3か月、どう過ごしましたか？家族と、大切な人と過ごした先生、当直で病院で過ごした先生、それぞれがそれぞれのお正月を過ごしたことと思います。新年にあたりなにか目標を立てていますか？日々の忙しさであまり考えることがないと思いますが、平成最後の年、そして新しい年を迎えるにあたり何か目標を立てるのはどうでしょうか？一年後にその目標を振り返るとまた違った一年になると思います。

昨年は未曾有な災害が多くありました。私の同級生(岡山の真備町)も被災し、報道はあまりされなくなっていますが、まだまだ厳しい毎日、そして新年を迎えているようです。いろいろなことは突然起こります。その突然に普段から備えることが本当に必要であることを昨年の災害では身近にあっただけに身に染みて感じたところです。

さて来年度は11名の新しい研修医の先生を迎えることになります。新しい年と一緒に過ごすことができることに感謝し、また新たな研修医の先生方を迎える緊張感をもって新しい年を始めたいものです。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

臨床研修病院としての役割

地域の中核病院としての機能を有する当院において、最新の医療施術及び情報を提供し、病院全体として医師の臨床研修を積極的に支援する。

初期臨床研修 理念

プライマリ・ケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、様々な医療従事者と密接な連携のもとで多くの患者に接することにより、医師として必要な人格を育み、広く社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する。

基本方針

- ① 臨床医として必要なプライマリ・ケアの基本的な診療能力(知識・技能・態度)を修得する。
- ② 人としても信頼される人格・素養を身につけ、思いやりの心を持って患者およびその家族に向き合い患者中心の全人的医療を行える。
- ③ チーム医療の一員としての役割を理解し、他職種と協働して診療することができるコミュニケーション能力を身につける。
- ④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。
- ⑤ 地域の中核病院としての役割を理解し、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動できる。

歯科医師臨床研修 理念

患者中心の全人的医療を理解した上で、歯科医師としての人格を涵養し、総合的な診療能力を身につけ、臨床研修を生涯教育の第一歩とします。

基本方針

- ① 全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践できるよう、歯科医師として必要な基本的診療能力を身につける。
- ② 患者さんの立場に立った人間味のある医療を目指す。
- ③ メディカルスタッフや地域の担当者等幅広い職種の人達とコミュニケーションを十分にとり、チーム医療を推進する。
- ④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。
- ⑤ 歯科医師としての良識と品格を備えるよう努力する。



発表してきました！

1 年次研修医 山本 聖子

この度、私は第 60 回日本呼吸器学会中国・四国地方会学会にて「Pembrolizumab による重症筋無力症を合併した肺扁平上皮癌の 1 例」という演題を発表しました。研修医として働き始めて間もない 5 月に研修していた神経内科で実際に診ていた患者さんの症例を、今回報告させていただきました。その方は残念ながら亡くなられてしまいましたが、診断過程や治療経過から学ぶことが大変多い方でした。その経験を今後の診療に生かしていきたい、たくさんの人にも知ってほしいと思っていたので、発表できた上に、初期研修医優秀演題賞まで頂き、本当に嬉しいです。まだまだ出来ないことはありますが、一人一人の患者さんと関わりを大切に成長していきたいと思っております。貴重な体験ができました。最後に、準備から当日の発表まで見届けてくださり、根気強く指導して下さった呼吸器内科の矢内先生、アドバイスくださった諸先生方にとっても感謝しております。御礼申し上げます。



初期研修医 優秀演題賞
■ R-05 岡山大学病院 呼吸器科センター 山本 聖子 先生
■ R-07 松江赤十字病院 教育研修センター 山本 聖子 先生
■ R-11 広島大学病院 呼吸器科センター 角本 保治 先生
■ R-14 鳥取大学医学部附属病院 呼吸器科センター 松 元賢 先生

にとっても感謝しております。御礼申し上げます。

地域医療研修合同説明会

毎年、1 年次研修医を対象として松江赤十字病院と合同で開催しています「地域医療研修合同説明会」を今年度当院が当番病院として 10 月 19 日に開催しました。協力施設 9 機関が参加され自機関の特徴やアピールポイントなどを紹介されました。



送別忘年会

今年は 7 月から 12 月までの 6 か月間鳥取大学から木原琢也先生・木原さくら先生 2 名の研修医を受け入れていましたので研修修了もかねて、送別忘年会を行いました。他機関より研修医を受け入れることは当院研修医にとって良い刺激になります。木原先生お疲れ様でした。



2 年次研修医 石黒 諒

9 月 6～7 日に広島県医師会館で行われた第 93 回中国四国外科学会総会にて発表させていただきました。広島と言えばお好み焼きが有名ですが、本場のものはやはり美味であり 3 軒ほど食べ歩きました。

昨年に引き続いての演題発表でしたが、まだまだ粗も目立ったかもしれません。しかし、少しずつ学会という場に慣れてきたような気がします。鳥取大学第一外科へ入局を決めた後ということもあり、他の先生方の発表も大変興味深く拝聴いたしました。最後になりましたが指導していただいた消化器外科の先生方、誠にありがとうございました。



1 年次研修医 伊東 麻由菜



この度、私は第 119 回日本内科学会中国地方会にて「肺化膿症後に発症した薬剤性急性尿細管間質性腎炎の 1 例」という演題で発表させて頂きました。初めての学会発表で分からないことばかりでしたが、呼吸器内科矢内先生にご指導頂き、本番の発表を行うことができました。学会発表とはこういったものなのかを



学べる貴重な経験となりました。矢内先生を初め、予演など沢山の先生方にお世話になり大変感謝しております。この経験を今後活かしていきたいです。

地域医療の現場から

社会医療法人仁寿会 加藤病院

2年次研修医 石倉 凱

加藤病院に赴くにあたって以前研修に行った先輩方に様子を尋ねると、「カメムシが多い」「生活が不便」といった意見を多く聞くが研修内容に関しての意見に乏しかったです。不安を抱えながら訪れた川本町（加藤病院のある町）は思いの外生活しやすく、地域の人々は非常に温かったです。加藤病院は地域全体を関連施設とともに支えており、先進の通信技術の利用や海外との交流などを積極的に行い、常に向上心を持ち未来を見据えた医療を行っていました。カンファレンスではテレビ会議で施設職員も交え、多職種が積極的に意見を出しあっており、眠くなる暇もない活発な内容でした。特にコメディカルスタッフの自主性・積極性は目を見張るものがあり、様々な研究会・学会への参加やオーダーをもらいに行く姿勢に圧倒されました。1ヶ月と短い期間でしたが、多分野からの広い視野とチーム医療の本質を学ぶことができました。



回診の様子



どこか痛いですか？



隠岐広域連合立隠岐島前病院

2年次研修医 安田 晃之

私は、地域医療研修として、隠岐島前病院・奥出雲病院・六日市病院の3つの病院へ計3ヶ月行ってきました。それぞれ、地域や医療事情に特徴があり、島根県は広いなど改めて感じた次第です。3つとも実習内容は、いろいろ違った訳ですが、今回は隠岐島前病院についての感想を。



写真は、講演中の自分。本気です。



地域サロンで参加者の方と一緒に。西ノ島のアイドルの皆さんに囲まれての1枚。

隠岐島前病院は、七類港からフェリーで2時間30分。人口3,000人の西ノ島町にあるベット数44床の病院です。

自分の希望としては、地域全体を見たかったので、病院の外に色々とおりました。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、地域医療センターの訪問、訪問看護への同伴、はたまた、公民館での地域健康教室で講演もしてきました。

疾患の治療だけでなく、いかにその方がその人らしく暮らせるか。これは、医師だけではなく、患者さん自身も含めた様々な方のチームワークで成り立ちます。地域のつながりの大切さを地域医療研修で学ぶことができました。

来年度からは、老年病内科（なかなかメジャーな科ではありませんが、高齢者だけを見る、いわば小児科の真逆の科です。認知症、誤嚥性肺炎、慢性心不全、脳梗塞等、高齢者によくみられる疾患をみます。）に進みます。こういった医療・介護の地域のつながりを、次の赴任地で、作り上げることができたらと思っています。

あまり、自分の写真は好きではないのですが、このページにある写真は、自分でもなかなかいい笑顔かと。

「愛されているから、愛したい。」

これまででもこれからも、高齢者の方々に愛のある診療を行っていけたらと思っています。

指導医からヒトコト

産婦人科 田代 稚恵



今年度も終盤に差しかかり、1年目および2年目それぞれの研修に一区切りといったところでしょうか。短期間でローテートするということは変化があって楽しい反面、ストレスもあるかと思います。やろうと思っていたことができなかつたり、なんとなく各科の研修が終わってしまっただけでは勿体無いです。限られた期間で学ぶには、最初に、具体的に、やりたい手技や理解したい疾患を指導医に伝えてもらうとよいです。最短1か月の研修ですから、意外にあっという間に終わってしまいます。あれもこれもでなく、小さな目標をいくつか作っておくと、それを達成することによって有意義な時間になるかと思います。さらに、「自分がどこまでやってもいいのかな」とか「やらせてもらえるのかな」とつい、遠慮がちになる場面もあるかもしれませんが、自ら「やらせてください」と発することも大事です。「ダメ」な時もありますが、指導医はその気持ちを理解して、その後の対応をすることができます。

研修風景

<酸素療法・人工呼吸器講習会>

しまね地域医療支援センターの補助事業「研修・指導体制魅力化事業」を活用して12月1日「酸素療法・人工呼吸器講習会」を当院講堂にて開催しました。講師に聖マリアンナ医科大学救命救急センターの田邊翔太先生を迎え、前半は講義形式で酸素療法について原理をもとに使い分けについて詳しく講演頂き、第2部では実際に呼吸器を使用してハンズオンセミナーでの指導を行っていただきました。非常に有用な講習会でしたが研修医の参加が少なく残念でした。(表紙写真)

<ACLS 到達テスト>

例年、春に1年次研修医全員 ACLS の受講を研修プログラムに組み入れています。その技術を身につけるために、秋から冬にかけて復習の意味を込めた技術テストを実施しています。皆、無事合格できたようですね。



番外編

当院で研修した先輩達、時々集まってミニ同窓会を開いているようです。風の便りに各々活躍しているのが耳に入ります。嬉しい便りです。



 **松江市立病院**
Matsue City Hospital

〒690-8509
島根県松江市乃白町 32 番地 1
TEL(0852)60-8000(代)
FAX(0852)60-8005